



そして、6年生になる

副校長 大久保 作織

まだ5月前ですが、季節は少し早く進み、既にサツキの花がきれいに咲いています。家庭訪問期間中には初夏の暑さを思わせる日もありましたが、急に涼しくなることもあり、春の天気は気まぐれです。

さて、今回は本校の6年生の様子についてお伝えします。

4月から6年生が「ハッピーサポート」の活動を行っています。感染症対策が緩やかになりましたので、今年度は毎朝1年生の教室に行き、関わりながら準備のサポートができるようになりました。その際6年生は自分たちで片付けてしまえば楽なのですが、「1年生が自分でできるように」声掛けをしようと気を付けていました。はじめはどのように関わればよいか少し戸惑っていた6年生も、次第に慣れてうまくサポートができるようになりました。そのおかげで、今では1年生も自分で準備ができるようになってきました。

先日は「1年生ようこそパーティー」が開催されました。6年生の運営委員会と実行委員会の子どもたちが昨年度末から計画をしていたもので、体育館で1・2・3組のグループ毎に3回行いました。私は3回とも様子を見ることができました。整列のさせ方、声の大きさ、ゲーム中のサポートなど、1回目よりも2回目の方がスムーズに行われていました。嬉しくなって、「こうしたらもっとよくなる」と思ったことを実行委員の子に伝えたところ、次の日3回目の会では、声掛けした点が改善されていました。私は、次に同じような活動があったときにこの経験が活かされればよい、というくらいに思っていたので、この対応の早さに大変驚きました。子どもたちのやる気や力に、自分も負けてはいられないと身の引き締まる気持ちになりました。



また、今年度初回の委員会でも、5年生をリードしようとする6年生の姿がありました。自分たちが5年生だったときに6年生から学んだことを思い出しながら、どの子ども学校のために頑張りたいという気持ちをもって活動していました。5年生には、学年集会で「6年生は自分たちの1年後の姿。この1年間6年生をしっかり見ながら学ぶように」と話しましたが、このように、毎年6年生が手本となって、次の子どもたちが育っていくのです。そして、だんだんと「最高学年6年生」になり、その中で、大門小学校の「伝統」が作られていくのだと思います。「伝統」を積み重ねた節目の50年、今年の6年生を中心とした子どもたちの活躍が、とても楽しみです。

ゴールデンウィークが始まります。連休中子どもたちやご家族の皆様、地域の皆様も、交通安全等に留意してよい連休をお過ごしください。